

過日7月8日に一般社団法人 日本老年学的評価研究機構 設立記念シンポジウム（以下、JAGES シンポジウム）が開催されました。

JAGES シンポジウムが開催されたのは7月8日。東京の天気はいままでの悪天候から一転、晴れやかな夏空となりました。会場は約150名にご参加いただきました。

理事 近藤尚己が司会・進行を務め、理事 尾島俊之が、JAGESの今日、法人に至るまでの約20年の歴史を遡りました。喜ばしかったことや困難であったことも含めて紹介し、開会のあいさつといたしました。会場からは笑も起り、緊張感で包まれた会場が微笑ましく温かいものとなったところでシンポジウムが開催されました。

一般社団法人日本老年学的評価研究機構

代表理事：近藤克則「法人設立の背景とめざすもの」

「日本人はなぜ長寿なのか？」といった疑問から今まで広がってきた JAGES の活動ですが、いままで調査にご協力いただいた参加者の数は延べ約50万人におよび、ビッグデータとなりました。2016年調査には41自治体で調査を実施しましたが、調査の回収率は約70%と非常に高く、これはひとえに自治体の方々のご協力と信頼関係の賜物であります。また、今までさまざまな研究機関から JAGES データを利用した論文が書かれています。集計したところ30以上の研究機関によって論文が書かれており、学術的にも広く認知されるようになりました。なお、法人名は一般社団法人 日本老年学的評価研究機構 Japan Agency for Gerontological Evaluation Study であり、今まで通り略称は JAGES のままです。任意団体だった JAGES の限界を超え、JAGES 機構の目的は健康長寿社会の実現を推進すること。事業目標は評価調査研究・人材育成・政策マネジメント支援・コンサルティング事業などを実践することとして、学術的な立場から健康長寿・地域共生社会づくりに貢献します。

ダイジェストでは書ききれないほどの熱いプレゼンでした！

本シンポジウムでは JAGES とさまざまなプロジェクトで関わりのある機関の方々にご登壇・ご発言いただきました。

厚生労働省社会・援護局地域福祉課

課長補佐：吉田貴典様「健康長寿・地域共生社会づくりに向けての課題と展望について」

制度分野ごとの縦割りでは解決できない問題、社会的孤立・排除、支え手と受け手が固定している懸念、地域のつながりの弱まり、地域の持続可能性などの課題意識から、住民一人ひとりの暮らしと生きがい、地域づくりを「我が事」として、公的支援やサービス・地域の分野領域の縦割りを超えた「丸ごと」の地域共生社会を目指していることをご紹介いただきました。その中でも支援ニーズのある方が複合的な課題を抱えていることを指摘されています。特に「孤立」に関しては、社会福祉法・生活困窮者自立支援法で

も条項に盛り込まれているほどの重要課題であり、重層的・協働的・予防的な包括的支援を進めていくことをご発言いただきました。また、国会答弁の一部に「孤立などの社会的背景が健康に与える影響に関する研究が日本にはあるのか？」という質問に「JAGES があります」とお答えいただいたエピソードがあり、それをご紹介いただいた際には会場はとても和やかな雰囲気になりました。

吉田様、ありがとうございました。

経済産業省 ヘルスケア産業課

課長補佐 岡崎慎一郎様 「次世代ヘルスケア産業の創出に向けて」

経済産業省も健康寿命の延伸に向けて、健康分野にアプローチしています。

JAGES の武豊プロジェクトによる研究成果を活用して、予防投資によって介護費がどの程度適正化されているのか試算しました。最近では健康経営や健康投資というコンセプトの普及を図っています。企業による社員の健康への投資によって健康になる・医療費が適正化されるという効果だけではなく、生産性向上で企業が活性化したり、リクルートに役に立つなどの効果を期待しています。

ソーシャル・インパクト・ボンド（SIB）という取り組みがあります。社会的な事業について、事業成果の達成度に応じて事業費が支払われる仕組みですが、その成果を誰が評価するかという課題があります。その評価の手法として、健康や介護の課題については、「多様な都市度に適用可能な要支援・要介護リスク評価尺度の開発：JAGES コホート研究」が利用できる可能性があります。

以上のような内容をご紹介いただきました。私たちもいつも健康経営や SIB について勉強させていただいております。

岡崎様、今後ともよろしく願いいたします。

株式会社ドリームインキュベータ

執行役員：三宅孝之様 「JAGES 設立記念シンポジウム 企業の立場から」

冒頭に「社会的課題の大きさは潜在的なビジネスに比例している、大企業はやらなければならない」というお言葉を頂戴しました。三宅様は経済産業省でのご勤務経験があり、「国の制度や法律は変えられる」と、民間企業から提言を出していくことの重要性を述べられました。「拡大する介護の問題」という社会的課題に対応するための方策をご検討されていく中で、JAGES と出会われたそうです。JAGES 以外にも同じような取り組みをしている団体を探すためにさまざまな情報を探されたそうです。ついには WHO にもお問い合わせをされ、JAGES を紹介されて最初に戻ったエピソードをご紹介いただき、会場が笑いに包まれました。自治体や大企業・地場企業・NPO と JAGES が連携し、JAGES が客観的・定量的に評価する構想をいただきました。とても勇気付けられるプレゼンテーションでした。

三宅様、ありがとうございました。

NHK 2020 東京オリンピック・パラリンピック実施本部

副部長：神原一光様 「『健康格差』メディアができること」

神原様は「NHK スペシャル」を制作してこられたディレクターです。「NHK スペシャル」のシリーズ「私たちのこれから #健康格差」の回で JAGES の研究・活動を取り上げていただきました。社会の姿が変わる現代に社会保障制度の対応が遅れており、その歪みが子ども・現役世代・高齢者の健康に及んでいるという問題意識を持ち、番組を制作されました。それを機に JAGES は NHK との共同研究契約に至っています。「メディアができることは、アプローチをかえること」という言葉が印象的で、JAGES と「NHK スペシャル」の新しいコラボもはじまっています。それが 2018 年中の放送が予定されている「AI に聞いてみた どうすんのよ！？ニッポン」です。NHK が開発している人工知能・AI「ひろし」に JAGES データを読み込ませたらどうなるか？をオンエアに向けて準備中です。ぜひ JAGES の結果が放送されることをお楽しみください！さすがメディアの方のご発表です。視聴者を引き込むのがとても上手で特派員も勉強になりました！神原様、とても楽しみにしています！

休憩をはさみ、総合討論しました。はじめに実装科学について、国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (AMED) 国際事業部 国際連携研究課 鈴木友理子様にご講演をいただき、基礎知識を確認した上で、登壇者のみなさまがディスカッションしました。現在、JAGES をはじめさまざまなエビデンスが創出されており、その社会実装の促進が求められています。そこでコレクティブインパクトについて総合討論いたしました。コレクティブインパクトとはいろんなセクターが同じ席について、同じ課題について議論し、お互いの強みを活かして社会的課題の解決を目指すアプローチです。本シンポジウムには中央政府関係者・メディア関係者・地方自治体関係者・研究者・企業関係者とさまざまなフィールドの方々にご参加されており、まさに地域共生社会に向けたコレクティブインパクトの場になっていたと感じました！

最後に、理事 相田潤より、ご参加いただいたみなさまへの感謝の意をもちまして閉会のあいさつとし、シンポジウムを終了いたしました。

今後とも、＜一般社団法人 日本老年学的評価研究機構＞へのご指導・ご支援をよろしくお願い申し上げます。

(報告：JAGES 東京事務局 西岡)

なお後援・協賛は以下の企業・団体より頂戴いたしました。ご支援を賜り誠にありがとうございました。

<後援>

Japan Network of Health Promoting Hospitals & Health Services (J-HPH)、毎日新聞社、国立研究開発法人日本医療研究開発機構、横浜市健康福祉局、厚生労働省、経済産業省、スポーツ庁、松戸市、新・公民連携最前線 (日経 BP 総研) ※順不同 敬称略

<協賛>

株式会社両備システムズ・パシフィックコンサルタンツ株式会社・株式会社ドリームインキュベータ オリックス株式会社 日本電気株式会社 株式会社 KADOKAWA Japan Network of Health Promoting Hospitals & Health Services (J-HPH) ※順不同 敬称略

<一般社団法人 日本老年学的評価研究機構>

代表理事：近藤克則

理事：尾島俊之・近藤尚己・相田潤・齋藤雅茂・長嶺由衣子・宮國康弘・堀田行久